

## 公表 事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援センターとさっちくらぶ（保育所等訪問支援）		
○保護者評価実施期間	2026年2月1日		～ 2026年2月13日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	11名	(回答者数) 3名
○従業者評価実施期間	2026年2月1日		～ 2026年2月13日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4名	(回答者数) 4名
○訪問先施設評価実施期間	2026年2月1日		～ 2026年2月13日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)	9件	(回答者数) 5件
○事業者向け自己評価表作成日	2026年2月28日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	〈支援体制〉 多職種連携のもと、個別配慮とユニバーサルデザインを組み合わせ、訪問先や学校と協働した支援体制を整えている。長年の関わりを活かし、保護者と学校をつなぐ役割を果たしている。	〈個別支援の工夫〉 訪問先と協議し実践しやすい支援方法を検討。PECS等の代替手段や発達検査を活用し、特性理解に基づいた支援を行っている。課題の「解消」だけでなく「軽減」を目標に現実的な支援を積み重ねている。	〈専門機関連携の強化〉 子どもの内面理解を深めるため、医療機関や専門病院との連携体制を強化し、適切な紹介や助言につなげられる仕組みを整える。
2	〈情報共有・説明力〉 記録やカンファレンスを活用し職員間で方針を共有するとともに、訪問後の報告会や丁寧で分かりやすい説明により、保護者が理解しやすい体制を整えている。	〈保護者・関係機関連携〉 面談や担当者会、報告会を通じて振り返りの機会を設け、保護者が相談しやすい関係づくりを意識している。	〈保護者支援の拡充〉 情報発信方法の多様化や保護者同士の交流機会を充実させ、継続的な支援体制を強化する。
3	〈職員の専門性〉 計画的な研修体制のもと専門性向上を図り、実際に使用する教材や支援ツールを提示しながら具体的な支援を行っている。	〈安全管理・組織体制〉 年間計画に基づく研修やヒヤリハット共有を通じ、安全と支援の質の向上に努めている。	〈支援の質の向上〉 訪問後の振り返りやカンファレンスを計画的に実施し、研修成果を実践に反映させることで支援の質のさらなる向上を図る。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・保護者への情報発信や周知の積極性が十分ではない。	・SNSやチラシなど手段はあるものの、情報提供の計画性や多様な手段の活用が限定的であること。	・情報発信の方法を多様化し、計画的に周知する仕組みを整える。
2	・保護者間の交流やピアサポートの機会が限られていること。	・保護者同士の交流機会や研修会での情報交換の場を増やす。	・定期的なアンケートやフィードバックを通じて、保護者のニーズに沿った場の提供を行う。
3			